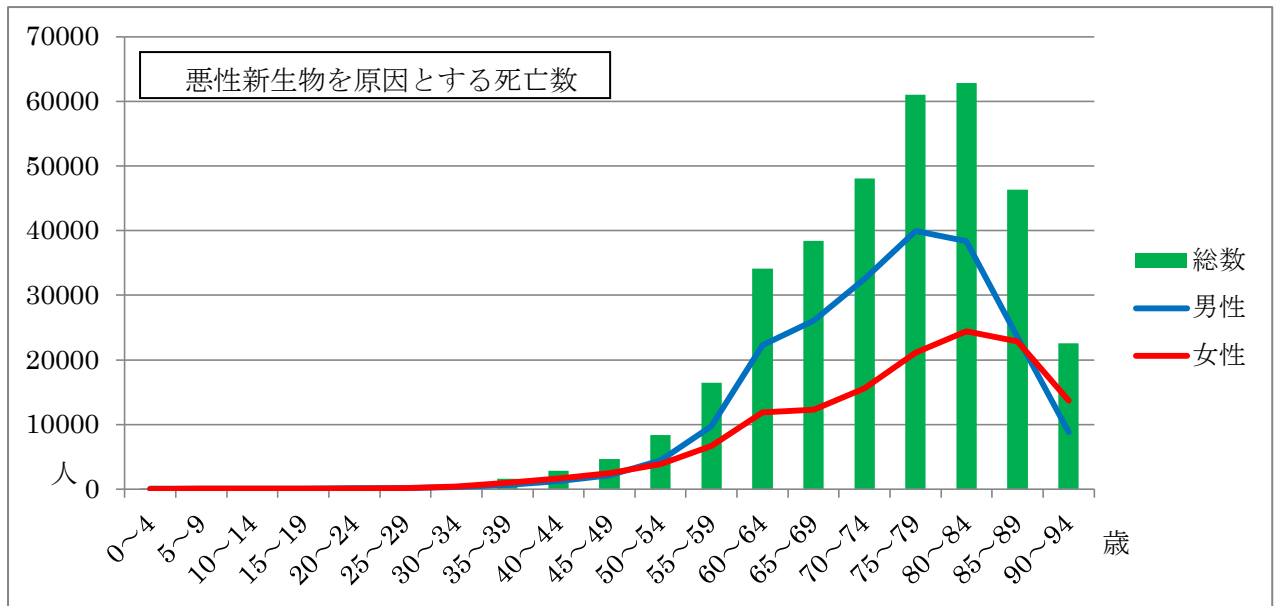


## 50代のハッピーライフプランニング Part 4 がん治療にかかる本当のお金を知っておこう

ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

幸せな老後を過ごすためには、病気になった時安心して治療に専念できるお金の準備も必要です。しっかり備えて、普段は楽しく暮らす！は他の災害も一緒ですね。前回の長引く病気に備えるお金に続き、今回は高額な医療費がかかると言われている、がん治療にかかるお金について知っておきましょう。

下のグラフは、がんを原因とする年代別死亡数を表したグラフです。がんによる死亡割合では、男性は60代後半、女性は50代後半がピークとなりますが、死亡数で見ると、70代後半から80代前半がピークになります。まさしく、高齢化とともに死亡数が増えていくがん治療に備えるお金を知っておくことは、安心して老後を過ごすポイントの一つでしょう。



厚生労働省 平成23年人口動態統計月報年計(概数)の概況より筆者作成

では、実際がんにかかってしまった場合、いったいいくらぐらいの治療費がかかるのでしょうか？がんの治療費は、種類ではなく、発見時のステージ(病気の進行度合い)によって大きく変わってきます。

早期がんの場合、初期の検査・手術・放射線治療などの初期治療に一番費用が集中した後、再発予防のための抗がん剤の治療がはじまります。最近の傾向としては、入院治療の日数は短くなっていますが、通院による放射線や抗がん剤の治療が一般化、高額化し、高額療養費の制度や民間保険会社の医療保険の入院日額による保険金の支給が当てはまらない治療も増えています。

がんにかかった時、実際に治療にかかるお金には以下のようなものがあります。

- ・初期の主たる治療や手術にかかるお金：高額療養費の自己負担限度額
- ・再発予防期間の治療費：治療内容により高額療養費の自己負担限度額
- ・定期検査を含めた再診の自己負担限度額

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

- ・副作用の防止、生活改善のためのリハビリテーションの治療費  
たとえば、肺がんの場合は呼吸トレーニング、咽頭がんならば嚥下（えんげ）トレーニング、リンパ節を取り除いた場合は、浮腫の予防トレーニングなどのメニューがあり、健康保険適用できるもある。
- ・健康保険適用外の治療費（差額ベッド代・先進医療・サプリメント代など）ほか

以上のことをイメージしながら、具体的な事例で試算してみましょう。

☆乳がんⅢa 期：手術の前に抗がん剤で病変を小さくし、その後全乳房を切除手術、その後再発予防のため抗がん剤（1年）とホルモン剤（5年）の治療。入院治療は月をまたいで2週間程度とした。入院月にはそれぞれ、通院治療もあり。

☆70歳の夫婦二人の年金のみ収入の生活者で、住民税を払っている世帯の場合

治療内容	期間	自己負担額	合計額
総治療費	60か月		約660万円
入院を伴う手術・治療 (70歳未満・一般的な所得)	2か月	44,400円×2か月 (約9万円×2か月)	88,800円 (約18万円)
通院による治療・定期検査 (70歳未満・一般的な所得)	30か月	12,000円×30か月	360,000円 (約110万円)
差額ベッド代	2週間	1万円×14日	140,000円
入院中食事代	2週間	260円×3回×14日間	10,920円
家族の交通費外食費など	2週間	3000円×14日間	42,000円
合計 (70歳未満・一般的な所得)			641,720円 (約150万円)

その他、乳房の再建手術は、保険適用される手術と、自己負担の場合があり、自己負担の場合は片側で約50万円から100万円ほどかかります。また、リンパ浮腫予防のためのリハビリテーション、治療が必要な場合もあります。

この事例から、5年間の総治療費660万円であっても、自己負担額は70歳以上の年金世帯であれば、高額療養費の制度を使って64万円程度、70歳未満であっても150万円程度であることがわかります。

70歳以上の年金生活者世帯の場合、がん治療による収入減少を見込まなくてもよい分、医療費に使えるお金が100万円程度あれば、比較的高額な治療を受けても、民間の医療保険に入らなくても治療に専念できることがわかります。

また、肝臓がんなど重粒子線治療等の先進医療が有効な場合、治療自体に300万円程度かかり、治療を受けるために遠方に滞在することも考えると、300万円から400万円程度の治療費が必要になります。とはいえ、高額な先進医療が有効ながんは限られています。先進医療特約をつけるためだけに、若いころに加入した安価ながん保険を解約するのは、保障の内容とよく照らし合わせてからにする必要

があるでしょう。

前回の脳梗塞と併せて、健康保険や高額療養費の制度をよく知った上で、医療のためのお金を準備しておくことが大切です。

次回は、最も気になる介護のお金について、まずは公的介護保険の制度について整理したいと思います。